

カンキツかいよう病の銅剤防除体系の検討

高単価での販売が期待できる県オリジナル品種では、カンキツかいよう病の被害が問題となっている。そこで、有効な防除体系を検討するため、パラフィン系展着剤、炭酸カルシウム剤を加用した場合における防除効果への影響と春期防除において重要な防除時期について試験を実施した。

病斑から細菌が雨媒伝染するため、感染源になる。



外観を著しく損ない、商品性が低下。

「甘平」でのかいよう病被害

○試験内容

供試品種：甘平（高接ぎ12年生）

調査方法：春葉を1樹あたり200葉、6/25に調査

指数0：病斑なし、指数1：1～3個、指数3：4～10個、指数5：11～20個、

指数7：21個以上

防除価=100－（処理区の発病/無処理区の発病）×100

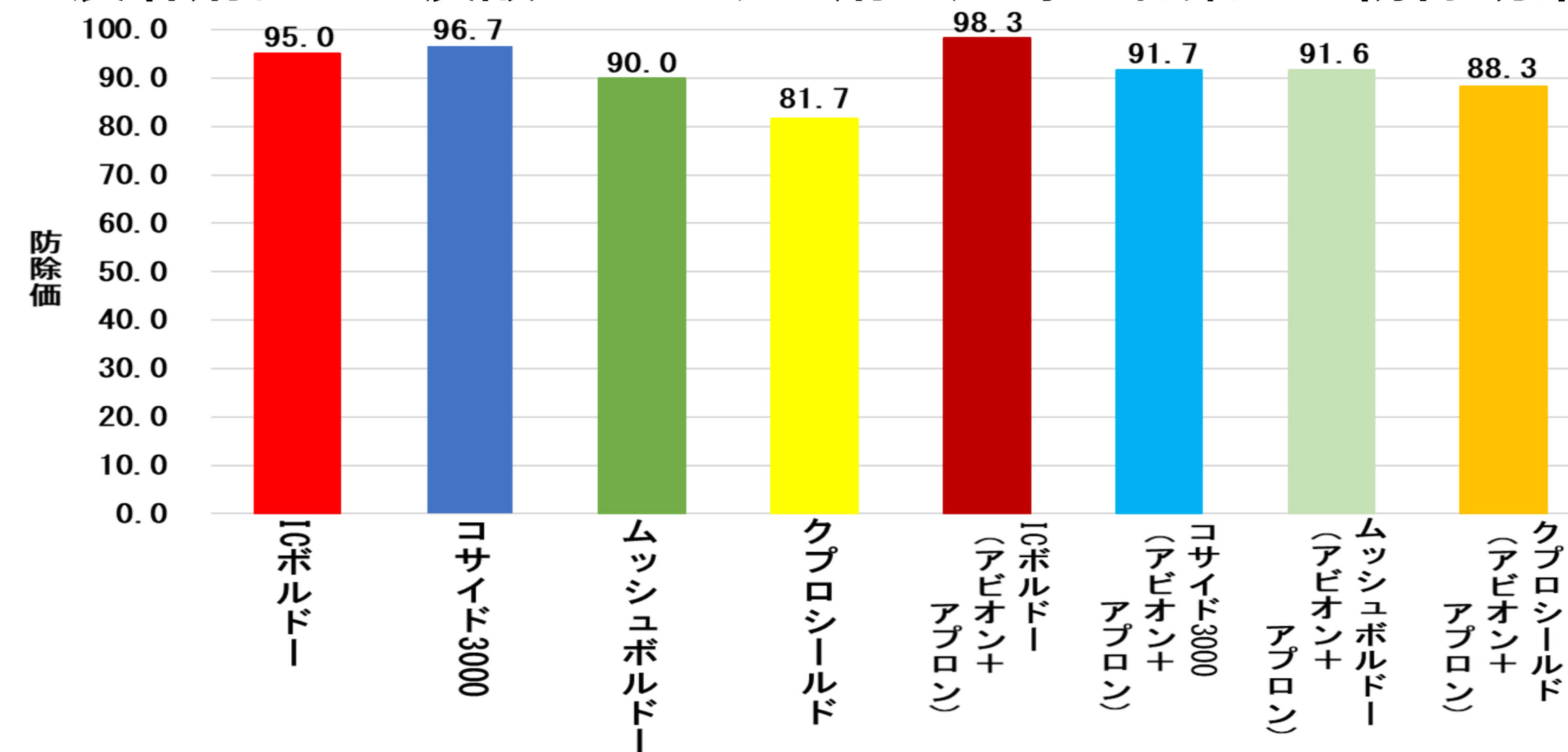
・展着剤および炭酸カルシウム剤加用による防除効果確認試験

供試薬剤	処理日		
	3/18（発芽前）	4/27（開花前）	5/29（落弁期）
ICボルドー66D	40倍	80倍（アビオンE 1,000倍）	80倍
コサイド3000	1,000倍（アプロン200倍）	2,000倍（アプロン200倍）	
ムッシュボルドーDF	500倍（アプロン200倍）	1,000倍（アプロン200倍）	
クプロシールド	1,000倍（アプロン200倍）	2,000倍（アプロン200倍）	
ICボルドー66D	40倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	80倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	
コサイド3000	1,000倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	2,000倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	
ムッシュボルドーDF	500倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	1,000倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	
クプロシールド	1,000倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	2,000倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	
無処理	-	-	-

・春期防除における各防除時期の防除効果確認試験

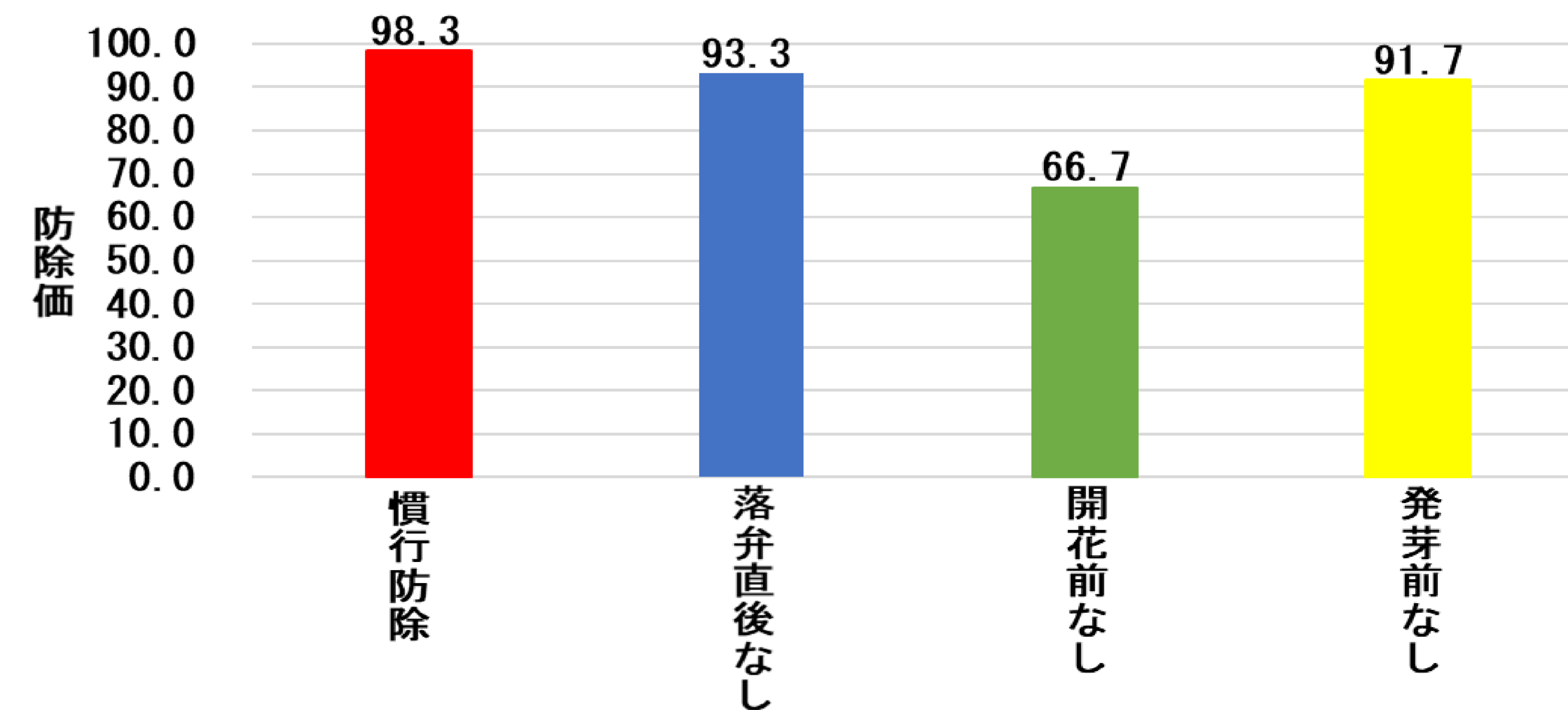
供試薬剤	処理日		
	3/18（発芽前）	4/27（開花前）	5/29（落弁期）
ICボルドー66D	40倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	80倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	
〃	40倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	80倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	-
〃	40倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	-	80倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）
〃	-	80倍（アビオンE 1,000倍、アプロン200倍）	
無処理	-	-	-

○展着剤および炭酸カルシウム剤加用時の春葉への防除効果



ICボルドー66D、コサイド3000、ムッシュボルドーDFでは単剤でも防除効果が高く、加用による影響は判然としなかった。クプロシールドにおいては展着剤と炭酸カルシウム剤加用区で防除効果がやや高くなった。

○春期防除における各防除時期の春葉への防除効果



慣行防除を実施した試験区で最も高い防除効果が認められた。防除時期については、開花前（展葉期）の防除が発病の抑制に影響していた。